

**世界一アクセスのいい美術館
東京ステーションギャラリーとその戦略
The Museum of the Best Access in the World
— Tokyo Station Gallery and its Strategy**

富田 章
Akira Tomita

【発表要旨】

東京ステーションギャラリーは、明治時代の日本を代表する建築家である辰野金吾が設計した東京駅丸の内駅舎の中にある。改札口からギャラリーのエントランスまで、わずか5秒しかかからないことから、世界一アクセスのいい美術館と自称している。きわめて都市型の美術館であることは言うを俟たない。

東京駅、すなわち日本全国からさまざまな目的で首都にやってくる人が最初に降り立つ駅の中にあることに加え、丸の内、すなわち日本有数のオフィス街の中にあるという立地、さらに丸の内自体が観光名所化している現在、観光地の美術館であるという側面も加えれば、東京ステーションギャラリーは、多くの人が集まる所に位置する非常に恵まれた条件の美術館ということになる。

一方で、施設のキャパシティが小さいことや、1日平均の乗客が50万人にも上る東京駅の改札に隣接しているという立地によって、集客という点では、大量動員が出来ないという不利な条件を抱えていることも事実である。

こうした中で、東京ステーションギャラリーはどのような方針で活動しているのか、都市型美術館としての存在意義と共に考察してみたい。

【プロフィール】

昭和 33 (1958) 年新潟生。慶應大学、成城大学大学院卒。(財) そごう美術館、サントリ－ミュージアム [天保山] を経て、現在、東京ステーションギャラリー館長。専門は、フランス、ベルギー、日本の近現代美術史。「梶田半古の世界」展、「ロートレック」展、「シヤガール 三次元の世界」展などを企画。著書に『偽装された自画像』(祥伝社) など。

東京駅と東京ステーションギャラリーの歴史

鉄道一般・黒字／東京駅関連・青字／東京ステーションギャラリー関連・赤字

- 1869 (明治 2) 年 大隈重信・伊藤博文によって鉄道建設政府決定
- 1872 (明治 5) 年 新橋―横浜間鉄道開通
- 1882 (明治 15) 年 東京馬車鉄道新橋―日本橋間開通
- 1883 (明治 16) 年 日本鉄道 上野―熊谷間開通
- 1885 (明治 18) 年 日本鉄道 品川―赤羽間開通
- 1887 (明治 20) 年 ヘルマン・ルムシュッテル来日
- 1889 (明治 22) 年 東海道線 新橋―神戸間開通
- 1890 (明治 23) 年 中央停車場建設決定 ルムシュッテル調査開始
- 1891 (明治 24) 年 日本鉄道 上野―青森間全通
- 1894 (明治 27) 年 三菱一号館竣工 ルムシュッテル帰国
- 1898 (明治 31) 年 フランツ・バルツァー来日
- 1903 (明治 36) 年 バルツァー帰国 辰野葛西建築事務所開設
- 1904 (明治 37) 年 甲武鉄道 飯田町―中野間運転開始
- 1908 (明治 41) 年 中央停車場本屋の基礎工事開始
- 1909 (明治 42) 年 山手線 (烏森―新宿―上野、池袋―赤羽間) 電車運転開始
- 1910 (明治 43) 年 高架線工事完了 本屋の鉄骨組立て開始
- 1914 (大正 3) 年 中央停車場完成 東京駅と命名
- 1915 (大正 4) 年 東京ステーションホテル開業
- 1919 (大正 8) 年 中央線 東京―万世橋間開通
- 1923 (大正 12) 年 関東大震災
- 1925 (大正 14) 年 神田―上野間高架線竣工 山手線環状運転開始
- 1945 (昭和 20) 年 東京大空襲によって被災
- 1947 (昭和 22) 年 駅舎復旧工事完成
- 1987 (平成 3) 年 国鉄民営化
- 1988 (昭和 63) 年 東京ステーションギャラリー開館
- 1992 (平成 4) 年 東日本鉄道文化財団設立 JR 東日本よりギャラリーの運営を引き継ぐ
- 2003 (平成 15) 年 丸ノ内駅舎が国指定重要文化財となる
- 2006 (平成 18) 年 東京ステーションギャラリー休館
- 2007 (平成 19) 年 丸ノ内駅舎復原工事開始
- 2012 (平成 24) 年 復原工事完了 東京ステーションギャラリー再開
- 2017 (平成 29) 年 東京駅駅前広場工事完了
- 2018 (平成 30) 年 東京ステーションギャラリー開館 30 周年